



住民自らの行動に結びつく 水害・土砂災害ハザード・リスク 情報共有プロジェクト 取組状況

1

水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト

A: 災害情報単純化プロジェクト

～災害情報の一元化・単純化による分かりやすさの追求～

B: 災害情報我がことプロジェクト

～災害情報のローカライズの促進と個人カスタマイズ化の実現～

C: 災害リアリティー伝達プロジェクト

～画像情報の活用や専門家からの情報発信など切迫感とリアリティーの追求～

D: 災害時の意識転換プロジェクト

～災害モードへの個々の意識を切り替えさせるトリガー情報の発信～

E: 災害情報メディア連携プロジェクト

～災害情報の入手を容易にするためのメディア連携の促進～

F: 地域コミュニティ避難促進プロジェクト

～地域コミュニティの防災力の強化と情報弱者へのアプローチ～

2

A:災害情報単純化プロジェクト

～災害情報の一元化・単純化による分かりやすさの追求～



①水害・土砂災害情報統合ポータルサイトの作成

これまで情報発信者がそれぞれ提供してきた災害情報をひとまとめで確認できるよう、気象情報、水害・土砂災害情報および災害発生情報等を一元的に集約したポータルサイトを作成する。



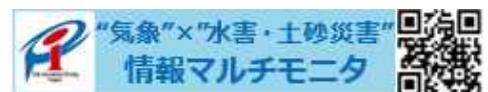
各リンク先

5



アクセス集中回避としてNHKとYahoo!の防災サイトをリンク

関係機関の防災サイトへのリンク



R1年6月 3日 ポータルサイト(PC版、スマホ版)運用開始
 R1年9月11日 水害リスクラインの提供開始(50水系, 3月末からは109水系予定)
 R2年3月 避難情報・被害情報の提供開始予定

6

②DiMAPSによる災害ビッグデータを含む事前情報・被害情報の一元表示

浸水想定区域図など災害に関するデータを今後ますます充実させていくとともに、ビッグデータは処理や表示に時間がかかることから、それらのビッグデータを**DiMAPS**上でスピーディーに表示できるようシステム改良を行う。

1) 浸水想定区域図など大容量データの迅速な表示

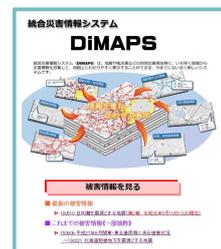
浸水想定区域図などの大容量データの表示をパソコンや携帯端末でスムーズに行うための画像タイルに変換し地図表示を迅速に行う。



浸水想定区域図

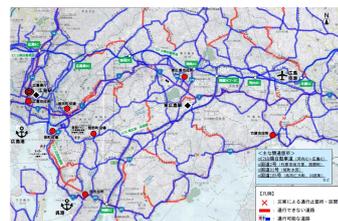
2) 携帯端末用表示対応

閲覧する端末に適切な文字サイズや配置で画面表示できるように調整



3) ETC2.0をはじめとする車両プローブ情報の活用

ETC2.0をはじめとする車両プローブ情報も活用し、緊急物資の輸送や一般利用者への通行可否情報の提供等、情報提供の強化を図り、災害対応への支援を強化する。



車両プローブ情報の活用事例
(広島市・呉市周辺通れるマップ※)
※現地調査、官民の車両プローブ情報を基に作成

7

(外部公開の閲覧性向上) スマートフォン用サイトを作成し、閲覧しやすくします。

(現状)
PC用画面を携帯端末で表示

(試験用画面)
携帯端末用画面で表示

○ スマホユーザーを想定した初期表示の設定等

① 一般閲覧者のニーズを想定した初期情報の設定

スマホ版: 交通網へ影響等、高いニーズが想定される情報を中心に表示
(他の情報は選択して表示可)
PC版: 集約した災害関係情報の全体を表示(行政・専門家向け)

② ローカル情報の閲覧がしやすいよう、地図の拡大率等を調整

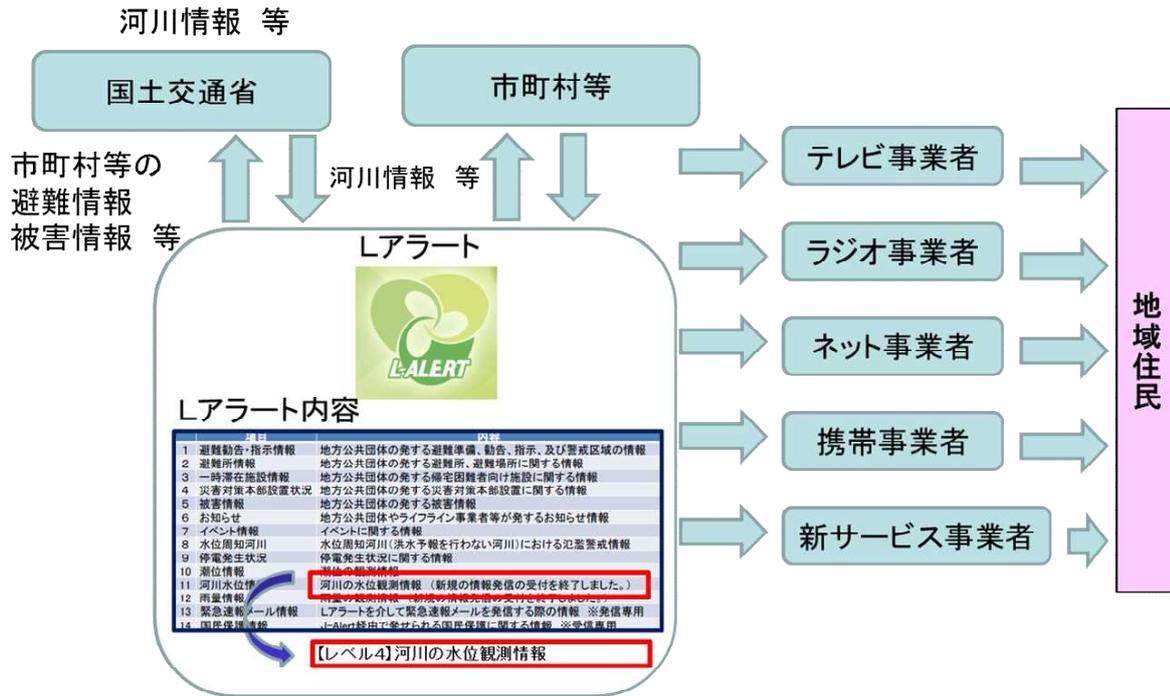


R1年 9月 大容量データの迅速な表示機能 実装
R1年12月 携帯端末用表示対応 公開予定

8

③一元的な情報伝達・共有のためのLアラートの活用

国土交通省のLアラート接続を進め、水害・土砂災害情報について、Lアラートを活用してマスメディア等に提供するとともに、自治体の避難情報との連携や、情報の重要性が一目で分かるような情報発信のタイトルに危険度レベルを付けた配信等、迅速かつ適切な情報配信が行われるような仕組みを構築する。



9

Lアラートの水害・土砂災害情報

- 指定河川洪水予報
- 土砂災害警戒情報
- ダム放流情報 **New!!**
- 水位周知情報 (国管理河川) **New!!**

Lアラート表示イメージ

VIEWER 現在有効な情報 (一覧) 現在有効な情報 (地図) 日時指定検索 期間指定検索

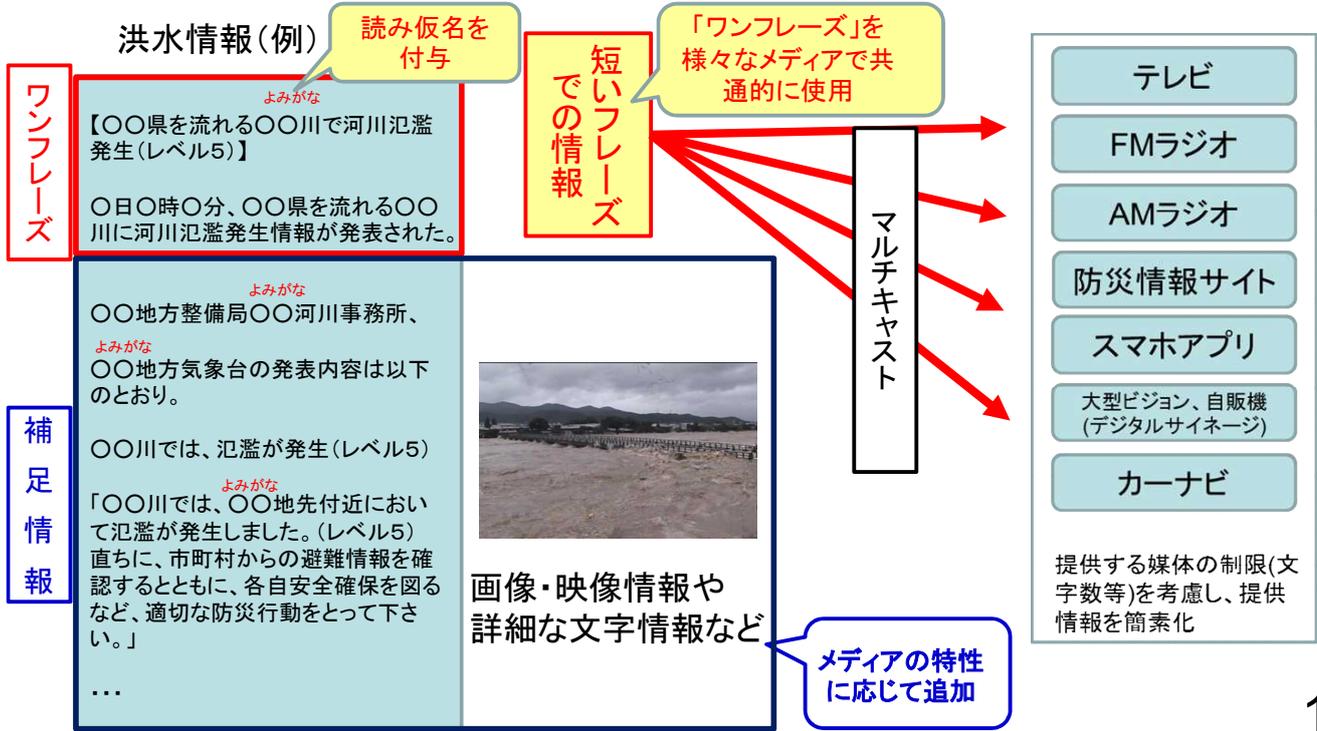
淀川水系姉川では、氾濫注意水位を下回

大分類	小分類	情報識別区分	モード	区分	版数	対象地域	災害名	種別
			訓練	更新	5	大分県 大分市		大分川氾濫注意情報
			訓練	更新	4	広島県 三原市		沼田川水系沼田川氾濫
			訓練	更新	2	山口県 防府市		佐波川氾濫注意情報
			訓練	新規	1	愛知県 豊田市		矢作川氾濫危険情報
			訓練	更新	7	滋賀県 長浜市		淀川水系姉川氾濫注
			訓練	更新	5	熊本県 八代市		球磨川氾濫注意情報
			訓練	新規	1	石川県 小松市		櫛川氾濫警戒情報
			訓練	新規	1	石川県 金沢市		手取川氾濫警戒情報
			訓練	新規	1	長野県 長野市		長川氾濫注意情報
			訓練	新規	1	山形県 寒室川		鮎川氾濫警戒情報
			訓練	新規	1	東京都他		野川・仙川氾濫危険情
			訓練	新規	1	東京都他		目黒川氾濫危険情報
			訓練	更新	2	広島県 大竹市		小瀬川氾濫注意情報
			訓練	更新	2	北海道 留萌市		留萌川氾濫注意情報
			訓練	新規	1	東京都他		神田川氾濫危険情報
			訓練	新規	1	東京都他		渋谷川・古川氾濫危険
			訓練	新規	1	長野県 上田市		千曲川氾濫注意情報
			訓練	更新	2	福井県 福井市		九頭竜川氾濫注意情報
			訓練	更新	3	富山県 富山市		常陸寺川氾濫注意情報

H31年4月 地方整備局において、Lアラート導入
R 1年6月3日 Lアラートへ「水位周知情報」、「ダム放流情報」の提供開始

④「ワンフレーズ・マルチキャスト」の推進

水害・土砂災害情報について、短いフレーズで意味を伝えられるように言葉を共通化しあらゆるメディアで共通して使用する「ワンフレーズ・マルチキャスト」を推進する。また、ラジオなど音声での伝達を想定し、情報配信の際には読み仮名を付けて配信する。



11



50文字

住民自らの行動に結びつく水害・土砂災害ハザード・リスク情報共有プロジェクト
第4回全体会議を開催します

58文字

令和元年における取組状況を振り返るとともに、今後のさらなる推進に向けた連携策をプロジェクトメンバーにより検討します。

本プロジェクトは、情報を発信する行政と情報を伝えるマスメディア、ネットメディアが、それぞれが有する特性を活かし、住民自らの行動に結びつく情報の提供・共有方法を充実させるための、6つの連携プロジェクト、33の施策を進めているものです。
今年の台風第19号をはじめ、令和元年の災害における各プロジェクトメンバーの取組状況を振り返り、今後のさらなる推進に向けた連携策を検討します。

1. 日時：令和元年12月20日（金） 16:00～18:00
2. 場所：半蔵門朝日ビル5階会議室
（東京都千代田区平河町1丁目2-7）
3. 参加団体：別紙1のとおり
4. 取材等：

140字以内でプレスリリース

よみがなデータベースイメージ

種別	水系	読み仮名	河川名	読み仮名	観測所名	読み仮名	所在地
雨量	荒川	あらかわ	荒川	あらかわ	岩淵	いわぶち	東京都 5丁目
雨量	荒川	あらかわ	荒川	あらかわ	小名木川	おなぎがわ	東京都 島8-1
雨量	荒川	あらかわ	新河岸川	しんがしがわ	志木	しぎ	埼玉県 町2

H31年3月29日 各地方局へ、短いフレーズでの伝達、よみがなを付した配信の実施を通知

R 1年12月 観測所等のよみがなデータベースweb開設、よみがなリストを各メディアに配布予定

12

⑤災害情報(水害・土砂災害)用語・表現改善点検会議の実施

水害・土砂災害関連の記者発表内容や情報提供サイト等について、内容や用語が分かりやすいか、また、放送で使いやすいか等の観点から情報発信者である行政関係者と情報伝達者である気象キャスター等が連携して定期的に点検を行い、結果を踏まえて用語や表現内容の改善を図る。



R1年12月 気象キャスター等によるわかりにくい・説明しづらい表現等の意見聴取予定

13

⑥天気予報コーナー等での水害・土砂災害情報の平常時からの積極的解説

行政機関と気象キャスターとの平常時からの連携を強化し、梅雨や台風シーズン期の平時の天気予報や気象情報の放送時に、気象キャスターが水害・土砂災害時に発表される情報について解説し、どのような種類の情報がどのような順番でどのようなタイミングで出てくるのか等を視聴者に分かりやすく伝える。



R1年6月21日 気象キャスターとの意見交換会開催

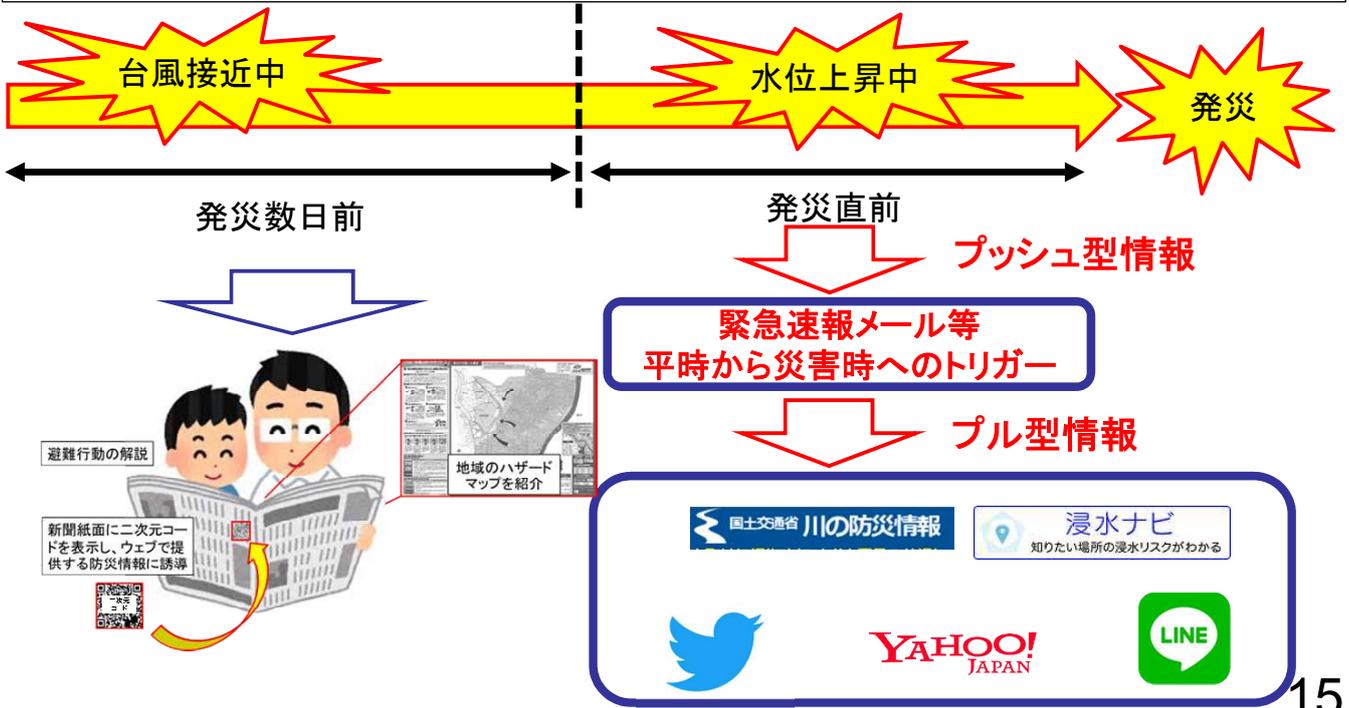
R1年9月 気象キャスターなどが利用できる解説材料(案)を作成・配布

R2年3月 解説材料を気象キャスターに配布予定

14

⑦災害の切迫状況に応じたシームレスな情報提供

台風接近の状況下など住民の関心が高まりつつある時点では、避難行動を解説する記事の掲載や、ハザードマップや災害情報ポータルサイトの紹介を行い、一方で、発災直前には、緊急速報メール等のトリガー情報を契機としてより詳細なプル型のネット情報に誘導して危険情報を的確に伝えるなど適時適切でシームレスな情報を提供する。



15



B:災害情報我がことプロジェクト

～災害情報のローカライズの促進と個人カスタマイズ化の実現～

17



18

⑧地域防災コラボチャンネルの普及促進

ケーブルテレビ事業者が有する地域密着性というメディア特性を活かして、コミュニティFM等のラジオ放送からの音声放送や国土交通省の河川監視カメラ映像とのコラボレーション放送により、より身近な地域の防災情報を住民に届け、的確な避難行動につなげる。

コミュニティFM(●●地域防災放送)

19



6月末からの大雨における配信状況

台風第19号における配信状況

整備局	該当事務所	ケーブルテレビ事業者
北海道	帯広開発建設部	株式会社帯広シティーケーブル
東北	秋田河川国道事務所	秋田ケーブルテレビ株式会社
関東	京浜河川事務所	イツツ・コミュニケーションズ株式会社 YOUテレビ株式会社
	利根川上流河川事務所 渡良瀬川河川事務所 下館河川事務所	ケーブルテレビ株式会社
	千曲川河川事務所	株式会社インフォメーション・ネットワーク・コミュニティ
北陸	高田河川国道事務所	上越ケーブルテレビジョン株式会社
	木曾川上流河川事務所	シーシーエヌ株式会社
中部	豊橋河川事務所	株式会社キャッチネットワーク
	猪名川河川事務所 淀川河川事務所	株式会社ベイ・コミュニケーションズ 株式会社ジューターテレコム (近畿整備局エリア内)
中国	太田川河川事務所	株式会社ちゅぴCOMひろしま 株式会社ちゅぴCOMふれあい
	日野川河川事務所	株式会社中海テレビ放送
四国	野村ダム管理所、山鳥坂ダム工事事務所	西予CATV株式会社 株式会社ケーブルネットワーク西瀬戸
	延岡河川国道事務所	株式会社ケーブルメディアワイワイ
九州	武雄河川事務所	株式会社ケーブルワン

地域防災コラボチャンネル 社会実験参加事業者(18社)

R1年5月21日 国交省と日本ケーブルテレビ連盟間で河川情報等の提供に関する協定締結

R1年6月～ CATVにおいて、災害時に水位、カメラ映像を放送

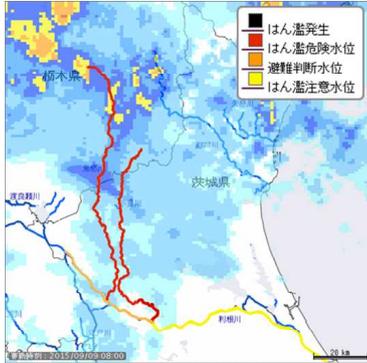
20

⑨水害リスクラインによる地先毎の危険度情報の提供

地域のリスク情報を充実させるものとして、上流から下流まで連続して洪水危険度を把握し、水位の実況値や予測値を分かりやすく表示する「水害リスクライン」により地先毎の危険度情報を提供する。

現行の洪水予報・危険度の表示

一連の区間の中で最も危険な場所にあわせて発令されているために、場所によっては、身近な地点の危険度や住民との切迫感とのずれが発生。



水害リスクラインを活用した洪水予報・危険度の表示

河川の区間毎や氾濫ブロック毎といったきめ細かな洪水情報等を実施するとともに、水位情報、カメラ画像、浸水想定区域などの情報との一元化

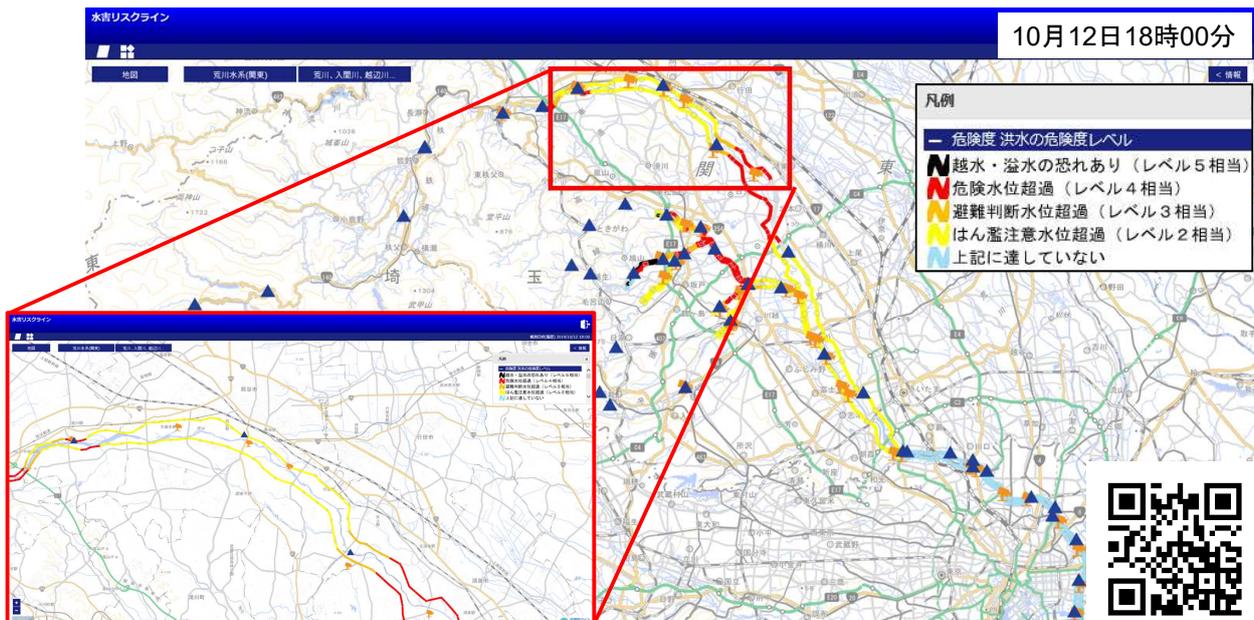


洪水予報の充実

これまでの3時間先の水位予測に加え、最高水位やその時間等の情報も提供するなど洪水予報の内容を充実

洪水の危険度、切迫性をわかりやすく提供することで、住民の避難行動が円滑化

21



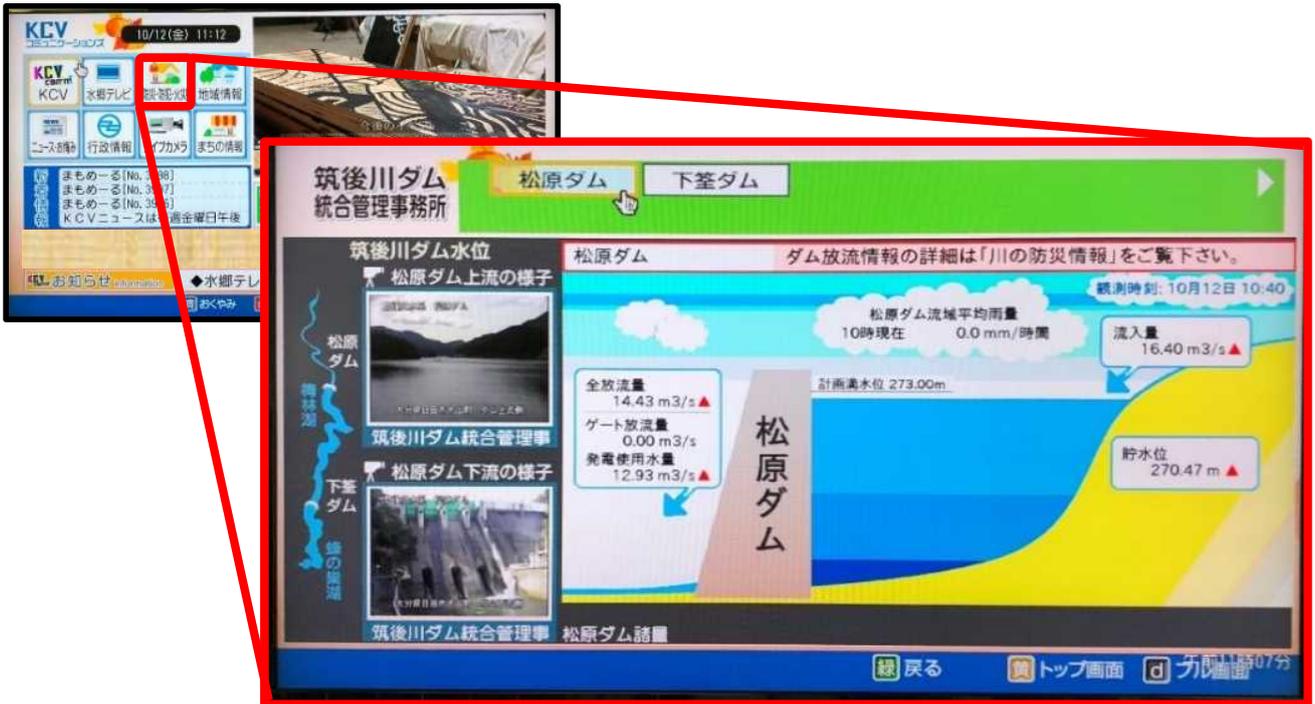
水害リスクライン画面【荒川水系】

R1年6月19日 10水系において市町村等向けに提供開始
 R1年9月11日 50水系に提供を拡大
 R2年3月 国が管理する全109水系で提供開始予定

22

⑪ダムの状況に関する分かりやすい情報提供

ダム放流量や貯水池への流入量等の情報に加え、貯水位の状況、ダム下流河川の状況、カメラ映像等の情報をテレビ等のメディアを通じて住民に提供する。



ケーブルテレビと連携した情報提供(九州地方整備局の例)

25



ダム状況に合わせてメッセージ変化

配信イメージ

《●時間前通知》

●●ダムでは、今後計画規模を超える洪水が予想されるため、●月●日●時より異常洪水時防災操作に移行します。自治体からの避難情報を確認してください。(今後の降雨状況により時間が前後する可能性があります。)**【警戒レベル●相当】**

チャンネル(番組)下部にテロップを表示



※西予CATV契約者のみ視聴可能

ホームページに放流状況等のメッセージを記載

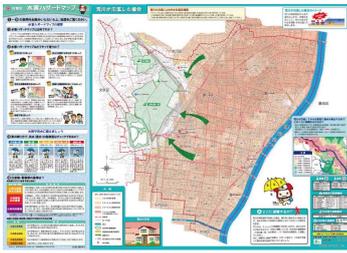
CCTV映像を地元ケーブルテレビへ配信

R1年4月22日 分かりやすいダム放流通知文の試行開始を通知
R1年6月 カメラ映像の配信(西予ケーブルテレビ(愛媛県))を開始

26

⑫天気予報コーナー等での地域における災害情報の平常時からの積極的解説

行政機関と気象キャスターとの平常時からの連携を強化し、梅雨や台風シーズン期の平時の天気予報や気象情報の放送時に、気象キャスターがその地域に根ざしたハザード情報、リスク情報、水害・土砂災害情報等、河川の特徴や観測所の見方等を解説する。



27



二つの川が合流するような場所では、上流の雨の状況などで一方の川の水位が上昇した場合、水は高いところから低いところに流れるため、合流点からもう一方の川の方に逆流するように流れます。

また、同時に水位が上昇した場合でも、川の勾配が異なるような場合には、同じような現象が起きる場合があります。

これが「バックウォーター現象」と呼ばれるものです。

令和元年8月15日
報道ランナーにおいて河川情報の
取得方法と活用方法の紹介
(関西テレビ放送)

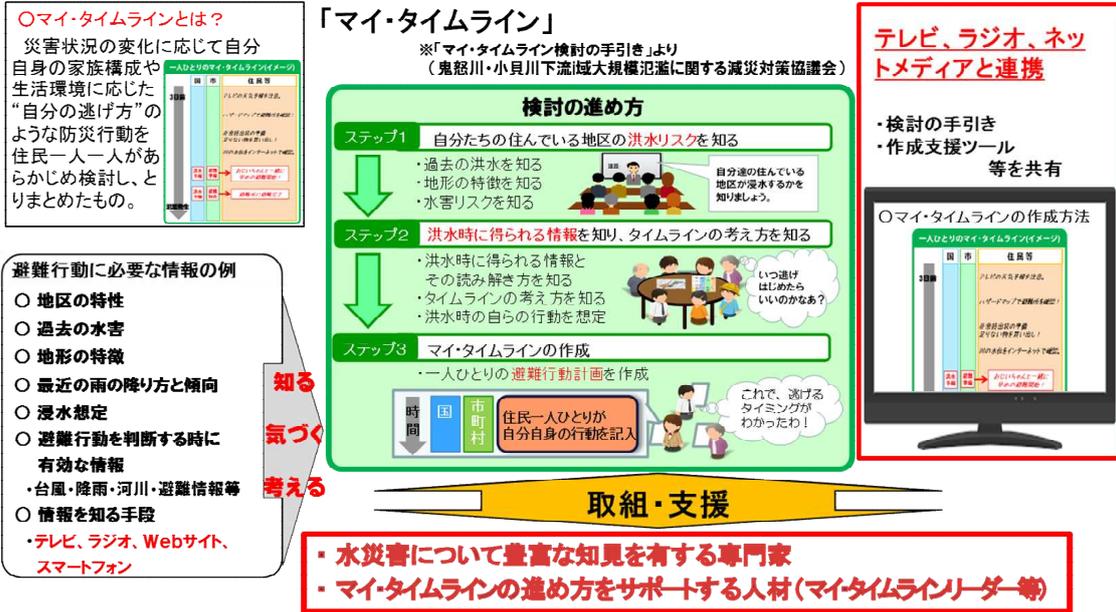
解説材料イメージ

- R1年6月～ 地域メディア連携協議会において意見交換
- R1年9月 気象キャスターなどが利用できる解説材料(案)を作成・配布
- R2年3月 解説材料を気象キャスターに配布予定

28

⑬テレビ、ラジオ、ネットメディア等と連携した「マイ・タイムライン」の普及促進

「逃げ遅れゼロ」の実現のため、テレビ、ラジオ、ネットメディア等と連携して、一人一人の災害時の防災行動計画（「マイ・タイムライン」）の検討の手引きや策定ツールを全国で共有するとともに専門家を紹介する等により、「マイ・タイムライン」の普及拡大を図る。



マイ・タイムライン検討ツール「逃げキッド」



ワークショップ講師のための研修会を開催
(令和元年10月20日)

⑭マイ・ページ ～一人一人が必要とする情報の提供へ～

一人一人が必要な地域防災情報を一覧表示できる「マイ・ページ」機能を導入し、災害発生時の速やかな行動に結びつける。

The screenshot displays a web portal interface for disaster information. On the left, there is a sidebar menu under '地域情報' (Regional Information) with categories like '水害・土砂災害防災情報' (Flood and Landslide Disaster Prevention Information), '被害情報' (Damage Information), '避難情報' (Evacuation Information), and '土砂災害危険度分布' (Landslide Hazard Distribution). The main content area shows various information cards: '河川情報' (River Information), '気象情報' (Weather Information), 'ライブ情報' (Live Information), 'リスク情報' (Risk Information), and 'ダム情報' (Dam Information). On the right, a '一人ひとりのマイ・タイムライン(イメージ)' (Individual My Timeline (Image)) is shown, featuring a vertical timeline from '3日前' (3 days ago) to '今' (Now). A red arrow points to the '今' (Now) section, which includes a table for '住民等' (Residents, etc.) with columns for '国' (Country) and '市' (City). Below the table, there are instructions for evacuation, such as 'おじいちゃんと一緒に早めの避難開始!' (Start evacuation early with grandpa!) and '避難所に避難完了' (Evacuation completed at shelter). A note at the bottom right states '図はイメージ' (Image is illustrative).

R1年12月 市町村選択機能をポータルサイトに追加予定



⑮スマホアプリ等の活用促進に向けた災害情報コンテンツの連携強化

既存のスマートフォン防災アプリやSNSを使って、利用者自らがあらかじめ災害時に必要となる情報を登録しておくことで、発災時には、利用者は直接必要な災害情報を得られる。このような機能の活用促進に向けて、行政とメディアの災害情報コンテンツにおける連携を強化する。



土砂災害警戒区域

都道府県砂防部局が調査・指定
国土交通省がオープンデータ化

×

土砂災害警戒判定メッシュ情報

気象庁が発表

提供

大雨警戒レベルマップ

広島県・ヤフー(株)が共同開発



C:災害リアリティー伝達プロジェクト

～画像情報の活用や専門家からの情報発信など切迫感とリアリティーの追求～

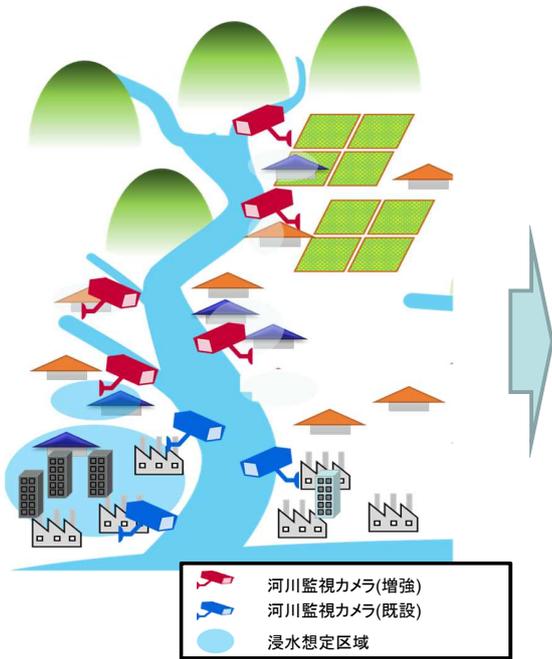
35



36

⑩河川監視カメラ画像の提供によるリアリティーのある災害情報の積極的な配信

リアリティーのある気象の状況や河川の状況を住民一人一人に伝達するため、河川監視カメラを活用し、通常の文字情報に加え、画像・映像によるリアリティーのある災害情報の積極的な配信を行う。



インターネットライブチャンネル等を活用した河川監視カメラ画像配信



スマートフォン、PCによる閲覧



テレビ放送(データ放送含む)

37



整備局名	対象河川	カメラ数
北海道開発局	13水系14河川 (天塩川水系天塩川他)	14
近畿地方整備局	9水系15河川 (由良川水系由良川他)	16
中国地方整備局	2水系4河川 (高梁川水系高梁川他)	4
四国地方整備局	1水系1河川 (肱川水系)	4

YouTubeによる動画配信

R1年6月17日 YouTubeによる動画配信開始(近畿地方整備局)
R1年7月～ 各地方整備局でYouTubeによる動画配信を拡充

38

⑰ETC2. 0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供の強化

ETC2. 0やデジタルサイネージ等のICTも活用し、ドライバーや避難者、住民等に対する情報提供の強化を図り、災害時における適切な行動につなげる。

対象	情報提供内容・方法
<p>ドライバー</p>	<p>○ETC2. 0による更なる防災情報提供（一般道における拡充） ・画像情報、アンダーパス冠水情報 ○OVICSによる更なる防災情報提供の検討 （走行時に注意するエリアの地図上表示）</p>  <p>情報提供イメージ</p>  <p>大雨エリアの提供ナビによる</p>
<p>住民 （避難者等）</p>	<p>○車両プローブ情報を活用した官民連携による通れるマップ情報の強化 ○道の駅や交通結節点における情報提供の強化 ○路上変圧器を活用したデジタルサイネージによる情報提供 など</p>  <p>通れるマップ 広島市・呉市周辺</p>  <p>道の駅「たけはら」（広島県竹原市）</p>  <p>デジタルサイネージ（岐阜県岐阜市）</p>

H31年3月 通れるマップ情報における通行実績情報の道路種別を細分化

H31年3月 路上変圧器を活用したデジタルサイネージ実証実験をさいたま市と岐阜市で開始
 また、R1年11月に東京都港区を追加選定

39



⑱水害・土砂災害情報を適切に伝えるため専門家による解説を充実

国土交通省職員など普段現場で災害対応に当たっている専門家がリアルタイムの状況をテレビやラジオなどのメディアで解説し、状況の切迫性を直接住民に伝える。



国土交通省職員による解説事例
(平成28年台風10号(平成28年8月30日 放映))

41



四国地方整備局と高松地方気象台の合同説明会
(令和元年8月13日 NHK「ニュース」より)

近畿地方整備局による電話解説
(令和元年8月15日 NHK「ニュース『台風10号』関連」(全国放送))

H31年3月29日 洪水時の解説の取組推進について地方局に通知
R1年5月 国土交通省職員などの専門家による解説を開始。
R1年10月末迄 57回実施

(整備局と気象台による合同説明会19回、電話等による専門家解説38回)

42

D:災害時の意識転換プロジェクト

～災害モードへの個々の意識を切り替えさせるトリガー情報の発信～

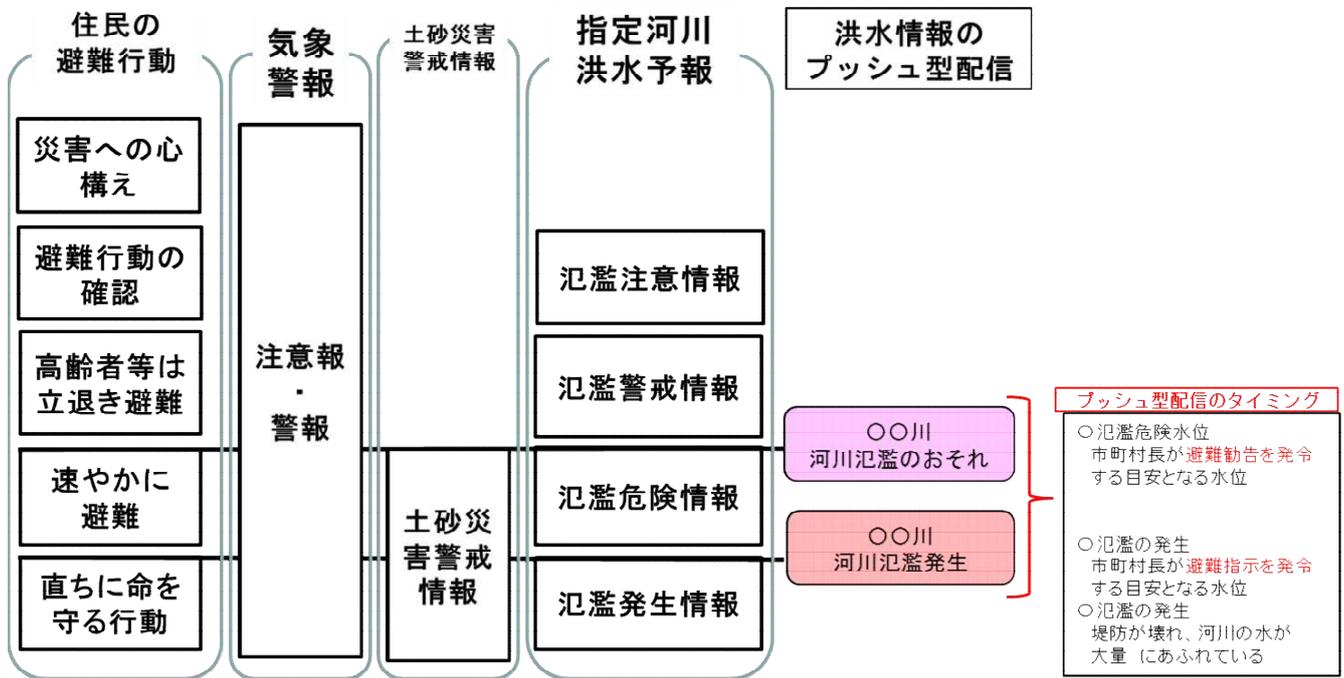
43



44

⑱住民自らの避難行動のためのトリガー情報の明確化

関係機関との連携のもと、各種防災情報における住民自らの行動（避難準備や避難開始）のためのトリガーとなる情報を明確化し、これらのトリガー情報について適切なタイミングで発信する。



45

イメージ

ちくまがわ
千曲川氾濫危険情報

ちくまがわ
千曲川洪水予報第4号
洪水警報
令和元年10月12日18時00分
ちくまがわかせんじむしょ ながのちほうきょうだい
千曲川河川事務所 長野地方気象台 共同発表

(見出し) ちくまがわ
【警戒レベル4相当情報 [洪水]】千曲川では、氾濫危険水位に到達し、氾濫のおそれあり

(主文) ちくまがわ いた うえだし
【警戒レベル4相当】千曲川の生田水位観測所（上田市）では、12日17時40分頃に、
避難勧告等の発令の目安となる「氾濫危険水位」に到達しました。上田市、埴科郡坂城
まち ちくまがわ
町では、千曲川の堤防決壊等による氾濫により、浸水するおそれがあります。市町村からの避難情報を確認するとともに、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとって下さい。

河川名・観測所名・地名等に読み仮名を付した文例

R1年5月29日 警戒レベル相当情報を付した、洪水予警報、土砂災害警戒情報の発表開始

R2年3月 洪水予報文において河川名や地名等に読み仮名を追加

46

⑩緊急速報メールの重要性の住民への周知

緊急速報メールを受信した際に適切な行動をとることができるよう、緊急速報メールは「生命に関わる緊急性の高い情報」であることをテレビやラジオ等のメディアを通じて周知する。

「生命に関わる緊急性の高い情報」を、特定のエリアの対応端末に配信するもの。

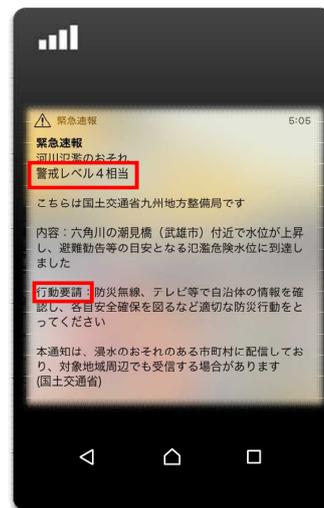
受信した場合は、防災無線、テレビ、ラジオ等を活用し、お住まいの自治体の指示に沿って落ち着いて行動してください。



47



ラジオ放送での周知
(2019,5,18; TOKYO FM)



緊急速報メールの発信状況画面(2019.8.28)
観測所:六角川水系六角川
潮見橋観測所(佐賀県武雄市)
配信市町村:佐賀県武雄市、嬉野市、
大町町、江北町、白石町

R1年6月3日 携帯キャリアにおける手引きに「警戒レベルの運用」を追加
R1年6月～ 各メディアにおいて周知を実施。引き続き、各メディアや政府広報等により周知

②緊急速報メールの配信文例の統一

水害・土砂災害に関する緊急速報メールについて、緊急性とその内容が的確に伝わるよう、配信文例を作成し関係者間で共有するとともに、携帯事業者が作成している「緊急速報メール配信の手引き」等に反映し、自治体にも周知する。

発信者によって配信内容や表現が統一されてなく、分かりにくい

件名: 河川氾濫のおそれ

本文:
〇〇川の〇〇(〇〇市〇〇)付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる「氾濫危険水位」に到達しました。堤防が壊れるなどにより浸水のおそれがあります。防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。
本通知は、〇〇地方整備局より浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺においても受信する場合があります。

・文章が長く、真に必要な情報が伝わりにくい
・緊急性が低い情報を配信している例がある 等

・水害・土砂災害に関する情報発信についての文例を整理し、統一化・簡素化を図る

(例)

こちらは国土交通省〇〇地方整備局です。
内容: 河川氾濫のおそれ
理由: 〇〇川の〇〇(〇〇市〇〇)付近で避難勧告の目安である「氾濫危険水位」に到達
対象地区: ××地区、××地区
防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど、適切な防災行動をとってください。

配信文の統一化・簡素化

エリアメール配信文基本構造

a.ヘッダー情報(レベル表示)	
b.発信者	
c.発令内容	1.発令情報
	2.発令時間
	3.対象地域
d.理由	1.何が
e.行動要請	1.いつ
	2.誰が
	3.何を
	4.どこで
	5.どのように
f.その他	

・文章を簡潔・明瞭化

49

①河川氾濫のおそれ

【見本】

(件名)
河川氾濫のおそれ

(本文)
警戒レベル4相当

こちらは国土交通省〇〇地方整備局です

内容: 〇〇川の〇〇(〇〇市)付近で水位が上昇し、避難勧告等の目安となる氾濫危険水位に到達しました

行動要請: 防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、各自安全確保を図るなど適切な防災行動をとってください

本通知は、浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります
(国土交通省)

②-i 河川氾濫発生 (河川の水が堤防を越えて流れ出ている時)

【見本】

(件名)
河川氾濫発生

(本文)
警戒レベル5相当

こちらは国土交通省〇〇地方整備局です

内容: 〇〇川の〇〇〇〇〇〇(〇岸、〇側)付近で河川の水が堤防を越えて流れ出ている時

行動要請: 防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、命を守るための適切な防災行動をとってください

本通知は、浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります
(国土交通省)

②-ii 河川氾濫発生 (堤防が壊れ、河川の水が大量に溢れ出している時)

【見本】

(件名)
河川氾濫発生

(本文)
警戒レベル5相当

こちらは国土交通省〇〇地方整備局です

内容: 〇〇川の〇〇〇〇〇〇(〇岸、〇側)付近で堤防が壊れ、河川の水が大量に溢れ出ている時

行動要請: 防災無線、テレビ等で自治体の情報を確認し、命を守るための適切な防災行動をとってください

本通知は、浸水のおそれのある市町村に配信しており、対象地域周辺でも受信する場合があります
(国土交通省)

警戒レベルを追加

簡潔・明瞭化

H31年3月20日 緊急速報メールの配信文の統一化・簡素化の通知

R1年 6月 3日 携帯キャリアにおける手引きに「警戒レベルの運用」と配信文の簡素化を追加

R1年 6月 警戒レベル情報の追加、簡潔・明瞭化した文での配信を開始

50

E:災害情報メディア連携プロジェクト

～災害情報の入手を容易にするためのメディア連携の促進～

51



52

⑫新聞等の紙メディアとネットメディアの連携

台風接近時等のタイミングで、避難行動を解説する記事の掲載と合わせて、二次元コードを新聞紙面に表示して災害情報サイトにリンクさせるなど、紙面からネット情報に導く。

避難行動の解説

新聞紙面に二次元コードを表示し、ウェブで提供する防災情報に誘導



地域のハザードマップを紹介

2019年(令和元年) 9月1日 日曜日

長崎新聞防災特集2019

防災Q&A

Q3 SNSで災害情報を得る上で注意する点は？

A. その信頼が正しいのか、内容と信頼源をしっかりと確認すること

Q4 自宅でできる安全対策は？

A. 家具や物の配置を工夫して避難経路を確保

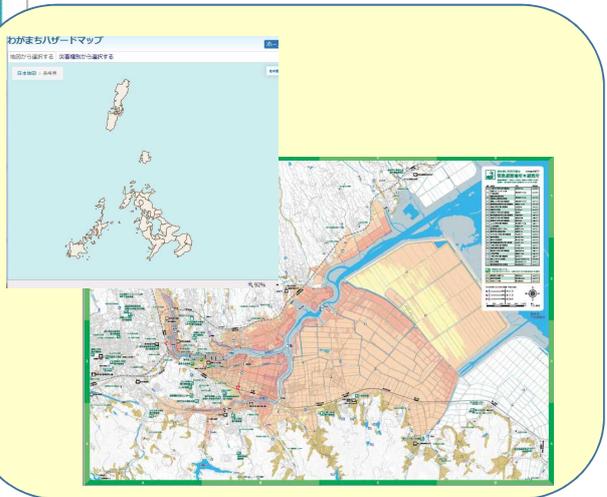
Q1 最近よく耳にするようになった「警戒レベル」とは何ですか？

A. 避難行動の目安になる5段階の基準で、レベル4から金員避難を

Q2 自分の住んでいるまちの災害リスクを調べる方法は？

A. 「わかまちハザードマップ」からチェック

わかまちハザードマップ



長崎新聞によるハザードマップの周知
(2019.9.1 朝刊 12面)

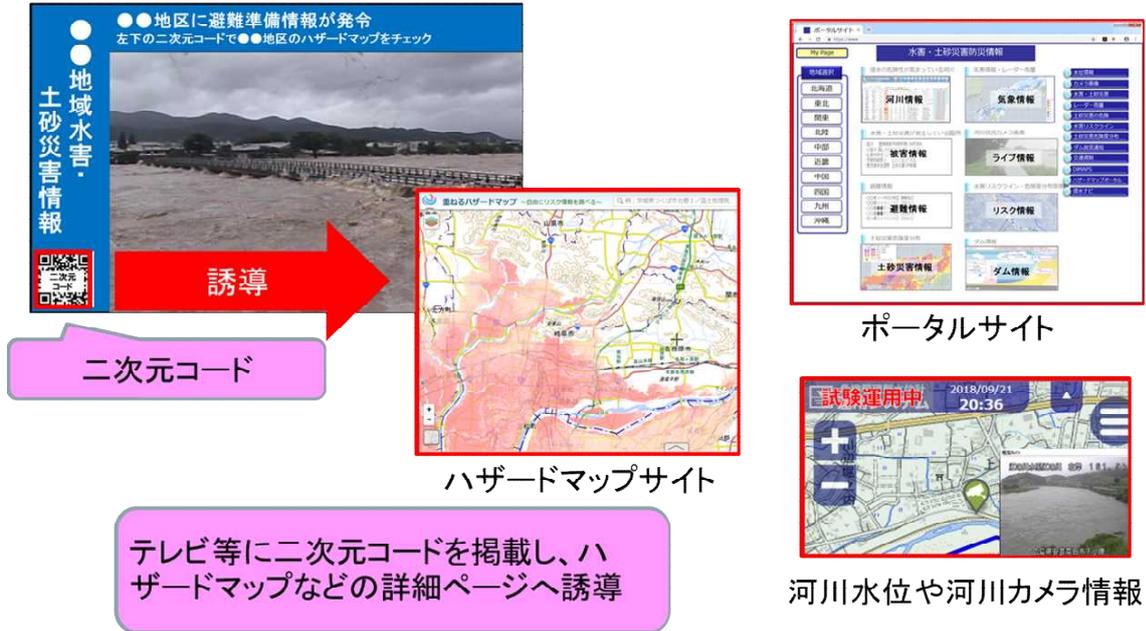
地域のハザードマップへ

R1年5月 地方新聞社連盟を通じて加盟各社に県別ハザードマップサイトの二次元コードを配布

R1年6月～ 地方メディア連携協議会において、地域別の二次元コードを配布

⑳ テレビ等のブロードキャストメディアからネットメディアへの誘導

災害時に、災害情報サイトへリンクする二次元コードをテレビ画面等に掲載することで、住民が容易にネット上の災害情報ページにアクセスして必要な情報をシームレスに取得できる環境を構築する。



55



ハザードマップポータルサイトの周知
(NHK 2019.7.20)

R1年4月 NHK、民放連に県別ハザードマップサイトの二次元コードを配布
R1年6月～ 地方メディア連携協議会において、地域別の二次元コードを配布

56

④ 様々なメディアでの行政機関の災害情報サイトの活用

各メディアの災害報道において、行政機関の災害情報サイトを活用してもらうとともに、各メディアのホームページ等においても、災害情報サイトへのリンクを掲載してもらうなど、災害情報の相互活用を促進する。

川の防災情報サイト

「川の防災情報」サイトにおいて、河川水位、レーダー雨量及びリアルタイムの川の画像等を、パソコンやスマートフォンで閲覧が可能。

川の防災情報検索システム

検索機能

- 検索対象
- 検索条件
- 検索結果
- 検索履歴
- 検索条件の保存
- 検索結果の印刷
- 検索結果の共有

二次コード



GPS機能により、現場に合わせた河川水位の検索が可能

パソコン: <http://www.mlit.go.jp/river/>
スマートフォン: <http://www.mlit.go.jp/river/>

川の水位情報サイト

国、都道府県の河川水位情報を一元的に提供。河川カメラも表示。
<https://k.river.go.jp/>

二次コード



■ 特長

- 国・都道府県別の河川水位情報、河川カメラの画像を一元的に提供。
- リアルタイムの河川水位にRISGによるリアルタイムの水位変動を反映。
- 河川カメラのリアルタイム映像をリアルタイムで提供。

特長機能

- 危険管理型水位計
- 通常水位計
- 河川カメラ

浸水ナビ(地点別浸水シミュレーション検索システム)

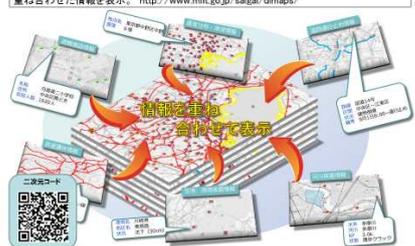
<システムの主な機能>

- 出発時に監視する、河川の水位情報(レーダー雨量)の表示が可能
- 指定した地点における浸水シミュレーションの表示が可能
- 二次コード


浸水ナビ: <http://www.mlit.go.jp/saigai/dimaps/>

統合災害情報システム(DiMAPS)

地震や風水害などの自然災害発生時に、いち早く現場から災害情報を収集して、地図上に重ね合わせた情報を表示。
<http://www.mlit.go.jp/saigai/dimaps/>



二次コード



R1年 6月 防災情報に関するリンク集を各メディアに配布
R1年11月 相互リンク先の災害情報サイトの照会

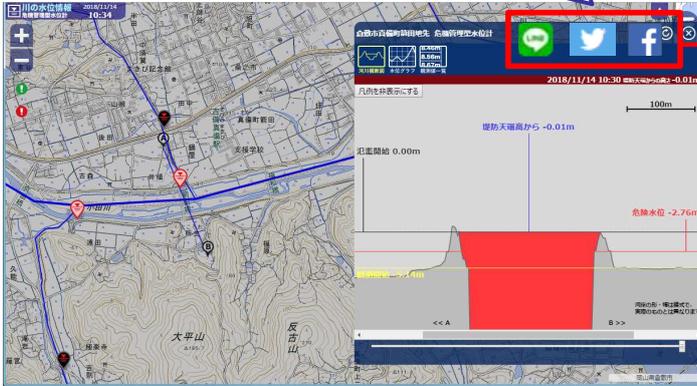
57



⑫災害情報のSNSへの発信力の強化

防災情報提供サイトにおいて、SNSへのリンク共有機能を追加すること等により、災害情報の拡散、共有化を図る。

LINEやTwitter、Facebook等のボタンを追加！



川の防災情報 水位観測所のページ



利用者は、自分のコメント追記して、投稿することが可能になり、正しい情報を拡散

59

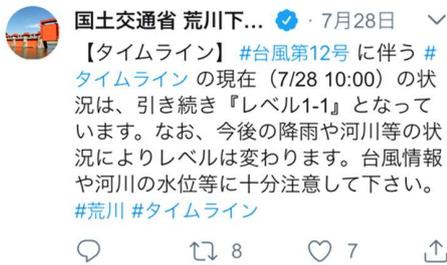


河川横断図(水位観測所地点)
水位観測所の水位グラフ
CCTVカメラ(静止画)



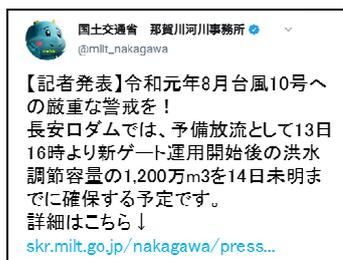
②行政機関によるSNS公式アカウントを通じた情報発信の強化

行政機関がTwitter、LINE等のSNS上の公式アカウントを積極的に活用した情報発信を行うことで、信頼性の高い災害情報を利用者にリアルタイムで提供する。また、SNSメディアとの連携により行政職員に対する研修等を実施し、より効果的な公式アカウントの運営を促進する。

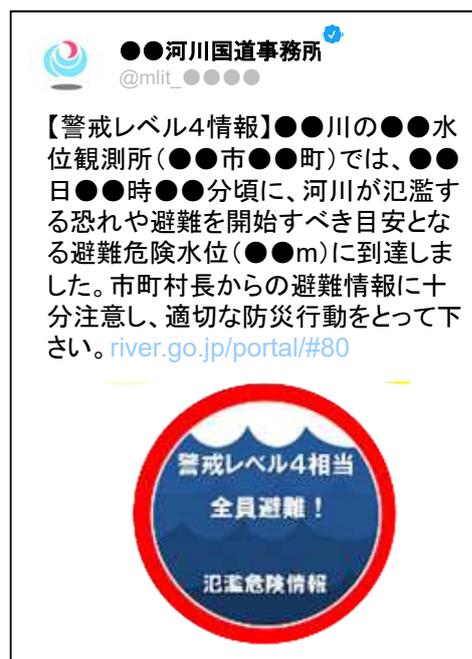
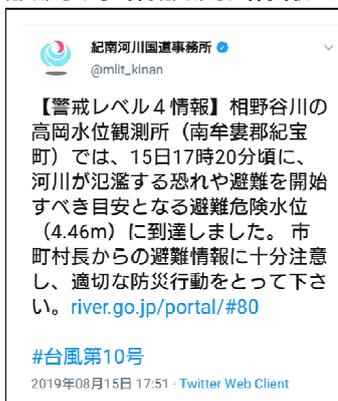


例: 荒川下流河川事務所Twitterアカウント

例: 九州地方整備局LINEアカウント



ダム放流(予備放流)情報の提供



河川水位に応じた注意喚起

SNSに使用する危険度を周知するアイコンイメージ

R1年 5月16日 公式アカウントを通じて災害情報の発信を強化する試行実施を地方局へ通知

R1年10月 国土交通省webサイトでSNSアカウント一覧を公開

⑳ ハッシュタグの共通使用、公式アカウントのリンク掲載による情報拡散

SNSを使った情報発信に当たっては、メディア間で災害時に用いる特定のハッシュタグの共通使用や、公式アカウント上で災害情報のリンク掲載等により、災害情報の共有化と拡散を促進する。

国土交通省 荒川下... 7月28日

【タイムライン】#台風第12号に伴う#タイムラインの現在(7/28 10:00)の状況は、引き続き『レベル1-1』となっております。なお、今後の降雨や河川等の状況によりレベルは変わります。台風情報、河川の水位等に十分注意して下さい。

ハッシュタグを共通使用

公式アカウントを引用

@MLIT_00

水害・土砂災害防災情報

河川情報

気象情報・レーダー画像

被害情報

ライブ情報

避難情報

リスク情報

土砂災害情報

ダム情報

あらかじめ公式アカウントに災害情報のリンクを掲載することで、公式アカウントを引用された際に、災害情報が拡散されやすくなる

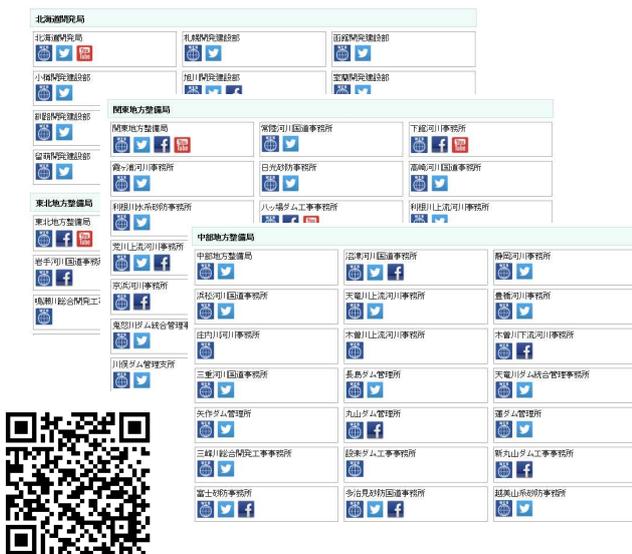
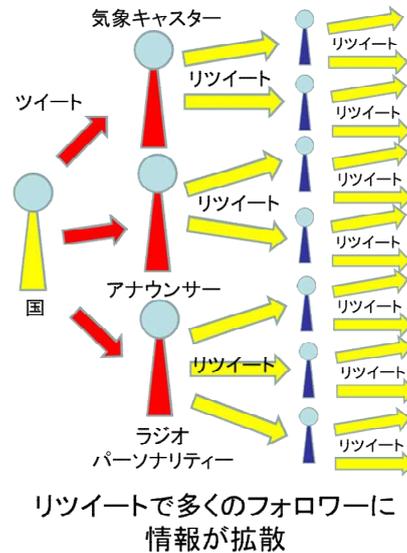
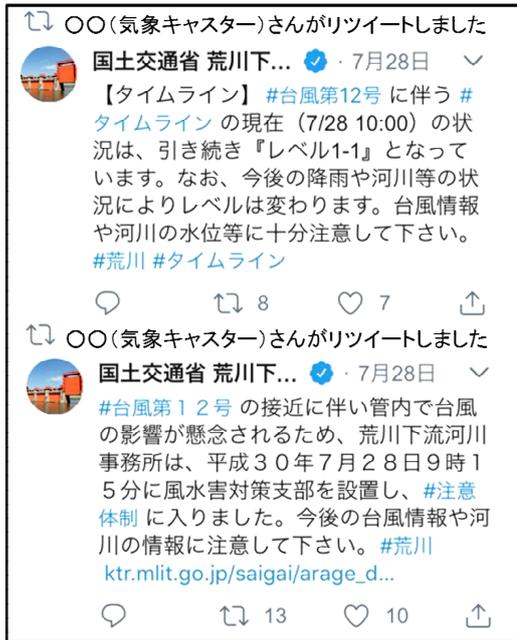
R2年3月 公式アカウントでの試行を踏まえて災害情報におけるSNS活用手引きを作成予定

63



② SNS等での防災情報発信及びリツイート

気象キャスター、ラジオパーソナリティー、アナウンサー等が、公式アカウントのツイートに対して積極的なリツイートを実施することで、発信元が確かな災害情報の拡散を図る。



公式SNSアカウント集のwebサイト公開

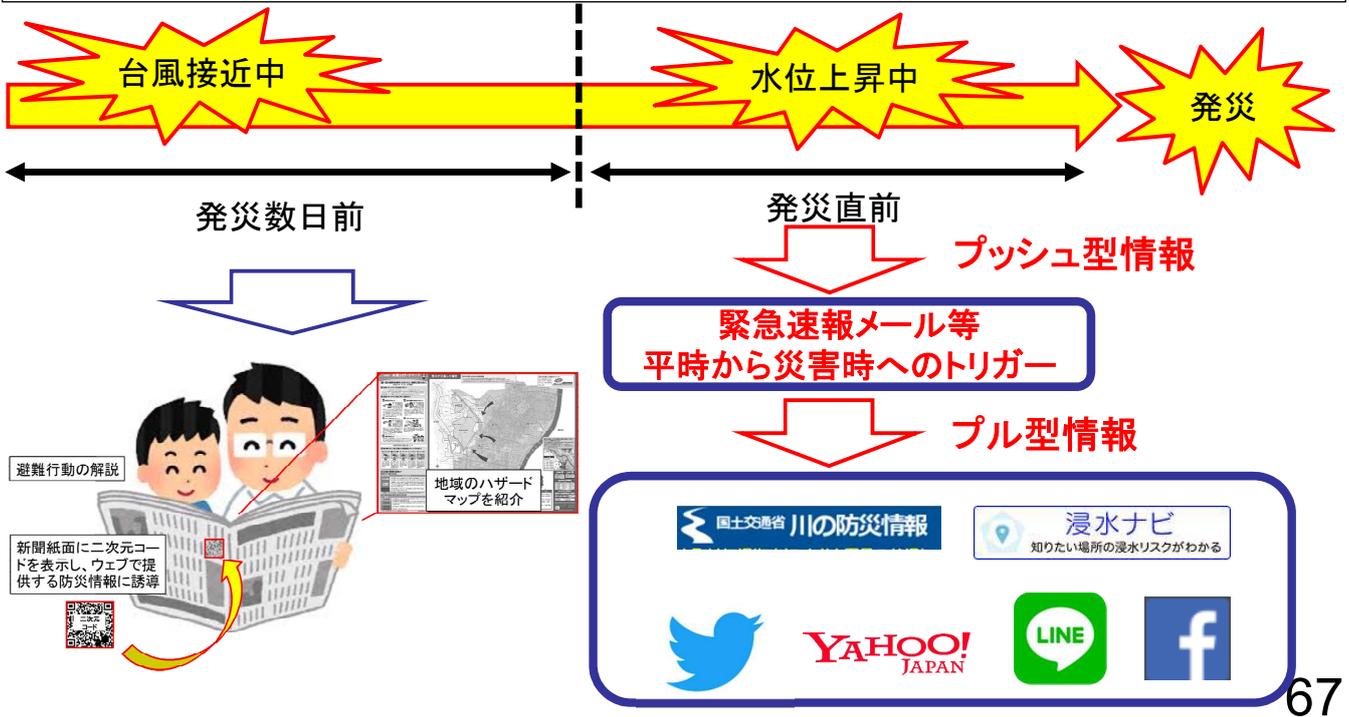


古賀涼子TOKYO FMアナウンサーによるリツイート

R1年 6月 国交省事務所SNSアカウント一覧を作成、各メディアへ配布
 R1年10月 国土交通省webサイトでSNSアカウント一覧を公開(全172アカウント)

⑳災害の切迫状況に応じたシームレスな情報提供【再掲】

台風接近の状況下など住民の関心が高まりつつある時点では、避難行動を解説する記事の掲載や、ハザードマップや災害情報ポータルサイトの紹介を行い、一方で、発災直前には、緊急速報メール等のトリガー情報を契機としてより詳細なプル型のネット情報に誘導して危険情報を的確に伝えるなど適時適切でシームレスな情報を提供する。



67

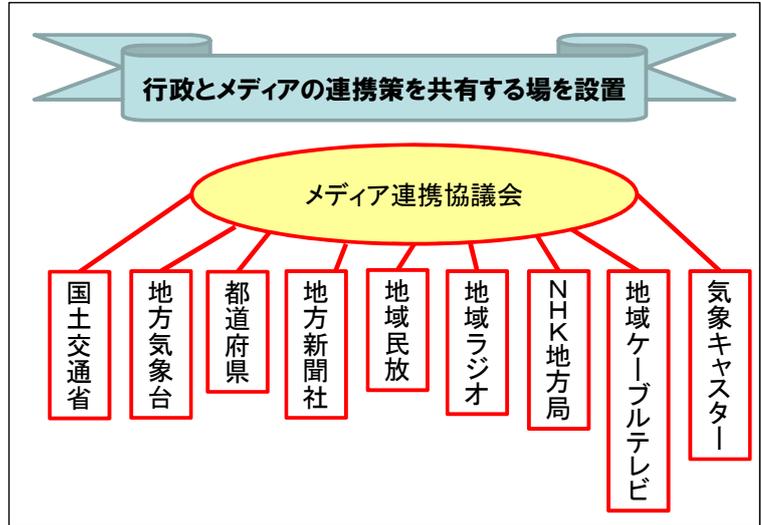


③0 地方におけるメディア連携協議会の設置

本プロジェクトのような全国的な連携とは別に、地方におけるメディア連携協議会を、例えば、地域に既に設置されている大規模氾濫減災協議会の下部組織に設置し、地方毎のメディア関係者（地方紙、地域CATV、地域ラジオ、NHK地方局、地域民放等）の参加の下、関係者の連携策と情報共有方策の具体化を検討する。また、メディアも連携した防災訓練を実施し、地域の取組を強化する。



地方でのメディア協議会において連携策と情報共有方策を検討



(令和元年7月10日 NHK「首都圏ネットワーク」より) インタビューの状況



関東地方整備局とNHKによる中継訓練 (令和元年7月10日 NHK「首都圏ネットワーク」より)



新潟県の地域メディア連携協議会の開催状況 (令和元年7月25日) (12月1日時点: 32道府県30協議会)

H31年3月 地方連携メディア協議会の設置を地方局へ通知

R 1年5月 地域において各メディア等への声かけ開始

R 1年6月～ 各地域において、地域メディア連携協議会を順次開催

③1 水害・土砂災害情報のオープンデータ化の推進

自然災害リスク情報のオープンデータ化を推進し、災害リスク情報の利活用促進を図るとともに、優良な利活用状況を取りまとめた事例集を作成し広く周知することで、災害リスク情報のメディアへの普及を図る。

災害リスク情報のオープンデータ化

洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域をはじめとする自然災害リスク情報のさらなる充実を図るとともに、これら**災害リスク情報のオープンデータ化を推進**

洪水浸水想定区域



土砂災害警戒区域



災害リスク情報の活用事例集の作成・周知

災害リスク情報の**利活用促進**のため、災害リスク情報の有効な活用事例を取りまとめた**事例集の作成・周知**



災害リスク情報を
テレビやアプリ等で活用



活用事例集のイメージ

オープンデータ化された災害リスク情報が**各種メディアやサービスで広く活用される**

71



県管理河川の洪水浸水想定区域
(想定最大規模)の公表



「危険度分布」とリスク情報の
一覧性の改善イメージ
(浸水想定区域を重ね合わせ)

R1年6月10日 県管理河川の洪水浸水想定区域(想定最大規模)(46河川)の
オープンデータを提供開始

R2年 気象庁HPの「危険度分布」とリスク情報の一覧性を改善予定

72

F:地域コミュニティー避難促進プロジェクト

～地域コミュニティーの防災力強化と情報弱者へのアプローチ～

73



74

③「避難インフルエンサー」となる人づくり

「避難インフルエンサー（災害時避難行動リーダー）」※を育成・支援するとともに、災害時には、信頼性が高く切迫度が伝わる防災情報を届け、避難インフルエンサーからの周囲への積極的な情報拡散を促すことで、地域コミュニティの中での高齢者を含む情報弱者に対する支援の強化を図る。

※「避難インフルエンサー（災害時避難行動リーダー）」とは、災害情報を正しく理解し、発信できる人・信頼される人で、災害時にはリーダーとなって高齢者を含む周囲の人たちに情報を拡散させることで、避難に対して大きな影響を与える人。



75

お天気キャスターとつくる
マイ・タイムライン
—自分の逃げ方を考えよう—

2019
9/10 (火)
10:00～12:00 (9:30開場)

会場
小千谷市民学習センター案集館
(小千谷市上ノ山4-4-2)

最近の災害や気象の特徴についての話を聞いたあと、自分自身の家族構成や生活環境にあわせて、オリジナルの「マイ・タイムライン」をつくれます。

マイ・タイムラインが
あるとき
マイ・タイムラインをつくらなかったら…

マイ・タイムラインが
ないとき
マイ・タイムラインを
作ってみたいわー

避難勧告！？どうしよう！
どこに逃げれば
いいんやー？

知りたい場所の浸水リスクはご存知ですか？
自治体などとの協力が効果的（継続）したら、自宅や会社などが
浸水するおそれがあるかもしれません。

お問合せ先
小千谷市防災管理課
TEL 0258-33-3189



講習会の実施：地域防災を担う自主防災組織や町内会の役員を対象
(令和元年9月10日)

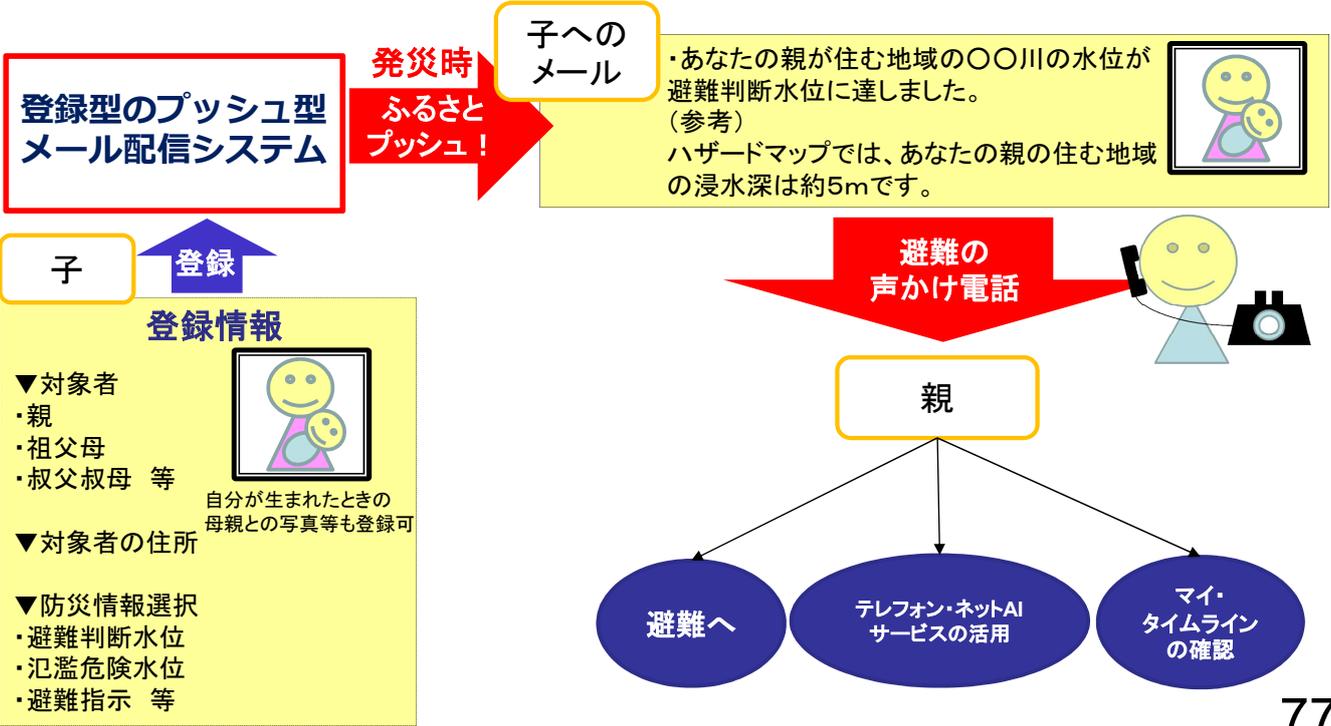
H31年2月～ モデル地区での人材育成の取組を試行

R 2年3月 試行を踏まえ、避難インフルエンサーの育成・支援に関する手引き書を作成予定

76

③登録型のプッシュ型メールシステムによる高齢者避難支援「ふるさとプッシュ」

災害情報に関する登録型のプッシュ型メールを充実させ、一人暮らしの親等が住む地域の水位情報や浸水リスクを、離れて暮らす子供等親族に通知する「ふるさとプッシュ」を開発、提供することで、親族による避難の声かけ(人から人)を支援し、住民の避難行動を促す。



災害時、大切な人を守るためあなたの一声で避難の後押し

逃げなきゃコール

「逃げなきゃコール」の流れ

- アプリの入手
地域の登録
- 防災情報のプッシュ通知
- 大切な人に電話で連絡
逃げなきゃコール
- 電話を受け
避難行動へ
- 安全な場所へ避難

政府インターネットテレビ

各種アプリの入手などは **逃げなきゃコール**

おばあちゃん、すぐに避難して!

わかったわ!

逃げなきゃコール

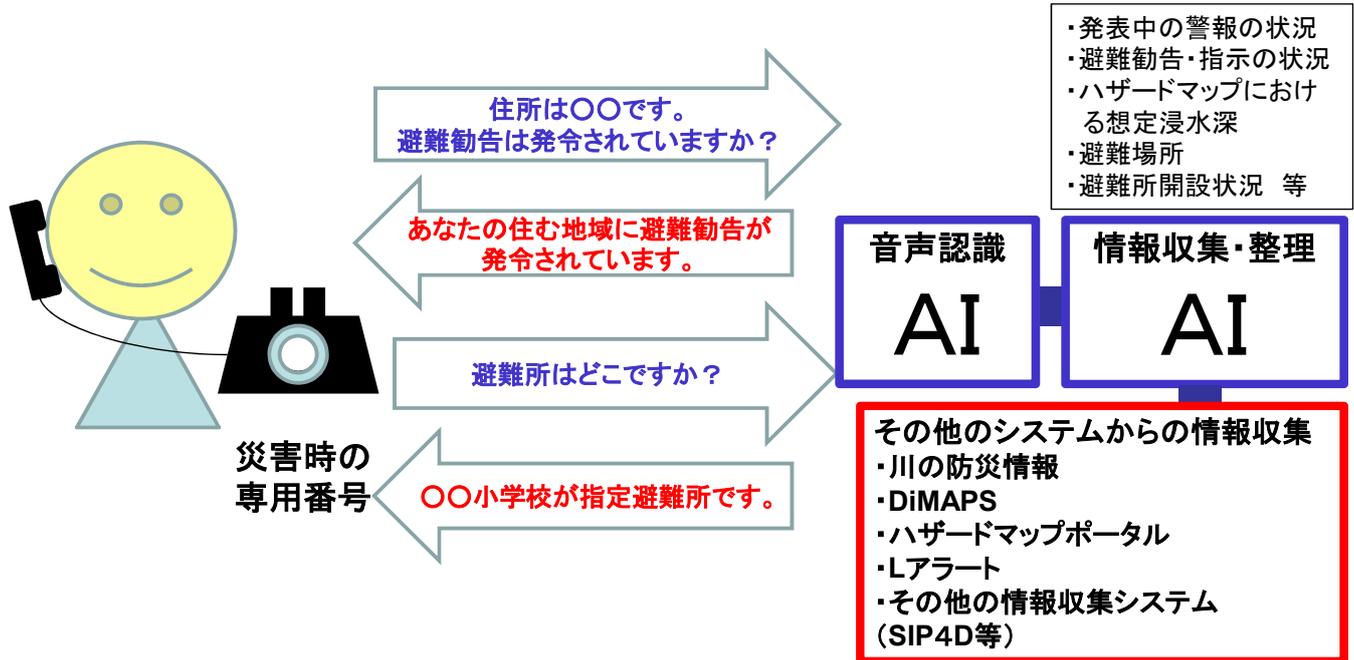
政府インターネットテレビ

NHK 証言記録スペシャル
いつか来る日のために
「雨季到来! いますぐ役立つ 豪雨対策」
(令和元年6月16日)

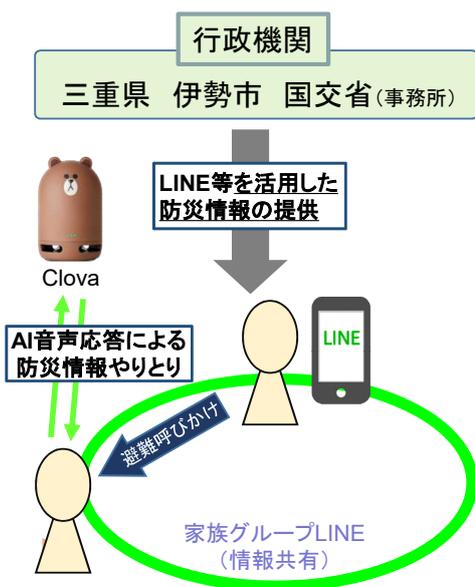
R1年5月 NHK、Yahoo!、KDDI、国土交通省、「逃げなきゃコール」キャンペーン開始
 R1年6月 引き続き、広報キャンペーンの継続と参画者募集予定
 政府広報による周知 (R1年7月、R1年9月Yahoo!バナー広告、R1年8月政府広報ラジオ「秋元才加とJOYのWeekly Japan!!」、R1年9月政府インターネットテレビ)

③4 電話とAIを用いた災害時高齢者お助けテレフォンの開発

発表されている警報・注意報や避難勧告・避難指示等の正確な情報をAIが収集・整理するとともに、高齢者等からの問い合わせ電話にAIを用いた音声認識を活用して自動応答するテレフォン・ネットAIサービスを開発する。



79



AI音声応答機能を活用した防災情報の入手

R1年9月13日 モデル地区(伊勢市)で現場実証訓練を試行

80

③ ETC2.0やデジタルサイネージ等を活用した道路利用者への情報提供の強化 【再掲】

ETC2.0やデジタルサイネージ等のICTも活用し、ドライバーや避難者、住民等に対する情報提供の強化を図り、災害時における適切な行動につなげる。

対象	情報提供内容・方法
ドライバー	<p>○ETC2.0による更なる防災情報提供（一般道における拡充） ・画像情報、アンダーパス冠水情報</p> <p>○OVICSによる更なる防災情報提供の検討 (走行時に注意するエリアの地図上表示)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">情報提供 イメージ</div>  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">ナビによる 大雨エリアの提供</div> </div>
住民 (避難者等)	<p>○車両プローブ情報を活用した官民連携による通れるマップ情報の強化</p> <p>○道の駅や交通結節点における情報提供の強化</p> <p>○路上変圧器を活用したデジタルサイネージによる情報提供 など</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">広島市・奥市周辺 通れるマップ</div>  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">道の駅「たけはら」 (広島県竹原市)</div>  <div style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">デジタルサイネージ (岐阜県岐阜市)</div> </div>

H31年3月 通れるマップ情報における通行実績情報の道路種別を細分化
H31年3月 路上変圧器を活用したデジタルサイネージ実証実験をさいたま市と岐阜市で開始
また、R1年11月に東京都港区を追加選定